

郷土資料館だより

Vol.36 No.1
2013.8.1

郷土資料館耐震補強事業とリニューアルオープン企画

郷土資料館の耐震補強工事は順調に進んでおり、6月末には工事全体の90%が完成しました。7月からは外構工事及び完成検査を行い、月末に引渡しが行われる予定です。その後1ヶ月間の枯らし期間を経て収蔵品の搬入が行われ、工事から3ヶ月後にリニューアルオープン致します。そこで今回はハード面について、リニューアルの概要を紹介します。

まず建物の外側は、正面玄関入り口東側に11人乗りのエレベーター、建物東壁中央に外階段（非常階段）を新設しました。これまで玄関西側にあったスロープは東側に移設し、上部の経年劣化した長い庇も取り替えました。

次に1階は、身体障害者対応の多目的トイレを新設し、場所も変更しました。会議室は机と椅子を新調し、名称が多目的室に変わります。会議や講座など多目的に利用する予定です。

一方、2階の常設展示室は、作業スペースとして使用していた部分を収蔵コーナーとし、今後予想される収蔵資料の増加に配慮しました。展示室は「昔のくらし体験学習室」となり、「三島の職人」「昭和の農家と農具」の展示に加え、18人が座れるテーブルと椅子を配置した体験学習コーナーを設けます。体験型博物館の中心的スペースとしての活用が期待されます。

最後に3階は、これまでの歴史系の常設展示室を「三島の成り立ち体験学習室」とし、旧石器時代～現代に及ぶ「三島の通史」の展示を行うほか、「三島宿」を取り上げ、より踏み込んだ展示を行う予定です。また展示室の中央に、図書コーナーとPCの端末を設置して情報検索ができるようにし、12人程度が座れる机と椅子を設置して歴史系の体験学習コーナーとしました。

いずれの室内も内装を一新し、明るく親しみやすい施設として生まれ変わります。11月1日にリニューアルオープンを予定しておりますが、これに合わせて下表に示す各種イベントを計画しております。皆様、ぜひご参加下さいませようご案内いたします。



完成間近の郷土資料館

リニューアル企画	講座・教室・講演会名	開催日
プレ企画・郷土教室	「郷土資料館館内探検ツアー」	8月2日(金)
記念式典	リニューアルオープン記念式典	11月1日(金) 10時30分
記念企画展	「偉人たちの足跡を訪ねて」	11月1日(金)～12月15日(日)
記念パネル展	「古今伝授のまち 三島と郡上大和」	11月1日(金)～11月13日(水)
記念講演会	「古今伝授のまち 三島と郡上大和」	11月4日(月・振替) 13時30分
郷土教室	「楽寿園の自然」	11月10日(日)
郷土教室	「むかしの道具」(回想法)	11月下旬の予定



図書コーナーの紹介

リニューアルした郷土資料館では3階に図書コーナーを設けることになりました。3階歴史コーナーの一角に縦穴式住居があったのはご存知でしょうか。古めかしい中にも趣のあった空間が体験コーナーとして新しく生まれ変わり、大きな本棚が設置されます。今まで人目に触れず眠っていた本や、また新しく購入した本など郷土三島にまつわる様々な本を置いていきます。まずは、200冊。新旧入り混じった郷土の興味深い本に出逢えます。是非足をお運び下さい。今後、増やしていく予定です。郷土の本がありましたらご一報ください。

郷土教室・ボランティア活動報告

毎月実施している子ども向け体験メニュー「郷土教室」について報告します。

5月6日(日) こどもの日体験デー

折り紙のこいのぼり作り、かぶって遊べる兜作り、メンコ作りを行い、105人のお子さんが参加しました。

お母さんやお父さんと一緒に作ったこいのぼりや兜に、みんなとっても嬉しそう！メンコ作りでは、おじいちゃんが懐かしそうに張り切っていました。



メンコ作り体験

5月12日(日) 古代のくらし体験

火起こし、勾玉作り、土器あてクイズを行いました。毎年好評のこの企画、今年は80人が参加しました。

火起こしは力が必要なためみんな一生懸命取り組み、炎が上がるとみんなで拍手！勾玉作りでは、当日は母の日ということもあり、「お母さんにプレゼントする！」というほほえましい声も聞かれました。土器あてクイズは本物の土器片に触れるチャンスということで、大人の方にも興味を持ってもらうことができました。



火起こし体験

6月9日(日) むかしの道具体験

かつおぶし削り、製麺機、石臼できなこ作りを行い、70人が参加しました。削りたてのかつおぶしに「いい香り！おいしい！」とにっこり。石臼体験では、大豆がきなこになって出てくる様子を熱心に眺めていました。うどん生地をのばしてカットできる製麺機では、機能的な作りに驚き、大人の方から「ほしい！」という声も聞かれました。「昔はこうやっておうちで作っていたんだよ」とお孫さんに語り掛ける様子も見られ、世代を超えて楽しんでいただけたひと時となりました。



石臼できなこ作り体験

夏休み期間やリニューアルオープンを迎える秋にも、多くの体験行事を予定しています。楽しく学べる郷土教室に、ぜひご家族でご参加ください。

ふるさと講座「ジオパーク探訪②」報告

- 開催日時 平成25年5月18日(土) 午前9時～午後4時
- 講師 静岡県地学会東部支部長 増島 淳先生
- 見学地 伊豆半島ジオパークに登録された沼津エリアのジオサイト8カ所（長岡凝灰岩・江ノ浦白色凝灰岩地域）
- 参加者 30人

今回の講座は、昨年度から3ヶ年（予定）にわたり開催する伊豆半島ジオパークについての講座の第2回目で、沼津エリアのジオパークを見学しました。当日は天候に恵まれ、静岡県地学会東部支部長の増島先生の案内のもと、皆さんとても熱心に説明を聞き、多くの質問が出ました。参加者の皆様からは「石切場の穴が特攻隊使用の跡地で、今日の平和な世界との対比を感じた」「三島の石灯籠や礎石の石材と産地の様子がリンクした」「車で通り過ぎるだけの場所に自然と歴史があり、味わい深い所だと分かった」など大変好評でした。「ジオツアーを継続的に行って欲しい」との声もたくさんいただき、来年度は三島ジオサイトを巡る講座を実施する予定です。



凝灰岩石切場跡

平成24年度 郷土資料館事業報告

●企画展示

展示名	実施期間	主な展示内容	入館者数
収蔵品紹介展示 「新規収蔵・修復・整理 ・調査資料」	4月28日(土) ～6月10日(日)	館の活動に関連した資料をテーマに特定せず紹介 ●新規に寄贈・購入した資料 ●修復済み資料 ●整理・ 調査をした資料	6,953人
収蔵品紹介展示 「災害の記録」	7月28日(土) ～9月9日(日)	●安政の東海地震、北伊豆地震ほか ●火災・水害・用水 不足 ●古文書に残された様々な災害の跡 ●東日本大 震災の写真パネル	6,416人

●その他の展示

生涯学習センター日本文学資料館「茂吉をめぐる歌人たち」展示

三嶋暦師の館 三嶋暦、三嶋暦関係資料の展示

西小学校郷土資料室 小学生向け郷土資料の展示

●講座・教室・講演会

講座名		開催日	講師	参加人数
郷土教室	「こどもの日体験デー」	5月5日(土)	館職員・ボランティア	75人
		5月6日(日)	館職員・ボランティア	65人
	「古代の生活」	5月13日(日)	館職員・ボランティア	160人
	「むかしの道具」	6月10日(日)	館職員・ボランティア	55人
	「楽寿園の自然」	7月8日(日)	館職員・ボランティア	55人
	「夏休み体験デー①むかしの遊び」	8月3日(金)	館職員・ボランティア	64人
	「夏休み体験デー②はたおり」	8月3日(金)	杉山 洋子 氏	11人
	「古代の生活」	8月12日(日)	館職員・ボランティア	64人
	「夏休み体験デー③古代の生活」	8月22日(水)	館職員・ボランティア	75人
	「むかしの遊び」	9月9日(日)	館職員・ボランティア	51人
	「むかしの道具」	10月14日(日)	館職員・ボランティア	52人
	「楽寿園の自然」	11月11日(日)	館職員・ボランティア	55人
	「ワラ細工を作ろう」	1月27日(日)	吉田 秀夫 氏	60人
ふるさと講座	「駿東・伊豆の古墳探訪」	9月13日(木)	高尾 好之 氏	31人
	「伊豆半島ジオパーク探訪」(富士山の日協賛事業)	2月23日(土)	増島 淳 氏	30人
ふじのくに 子ども芸術 大学	「残像現象やアニメーションの世界に触れる」	7月21日(土)	伊藤 尚未 氏	9人
	「ヒカリの反射であそぶ」	8月26日(日)		9人
	「ヒカリのあたり方で現れる影造形に挑戦」	9月8日(土)		7人

●資料の収集、保管状況 平成24年度末現在収蔵資料総数 33,703点

平成24年度新規受入資料数 136点(内訳:寄贈135点、購入1点)

購入資料:源頼朝山木館夜討図(浮世絵)3枚続き

※平成23年度までのデータベース化事業の成果をもとに算定し直しています。

●刊行物の発行

『落合家文書目録』(1,100円) 『三島市郷土資料館研究報告6』(800円) 『三島宿関係史料集6』(600円)

●平成24年度 開館日数156日、入館者数24,870人

※耐震補強及び改修工事のため、平成24年10月1日から平成25年10月31日まで全館休館中です。

寄贈資料の報告 安久 杉山家資料

平成25年4月、市内^{やすひさ}安久の杉山家より近世・近代の古書・古文書、太政官の高札、明治時代の食器などの多数の資料を寄贈していただきました。杉山家は江戸時代には安久村の名主などを勤め、明治以後は中郷村村長や市教育委員を輩出しています。資料整理は完了していませんが、現段階での整理の結果をお知らせします。

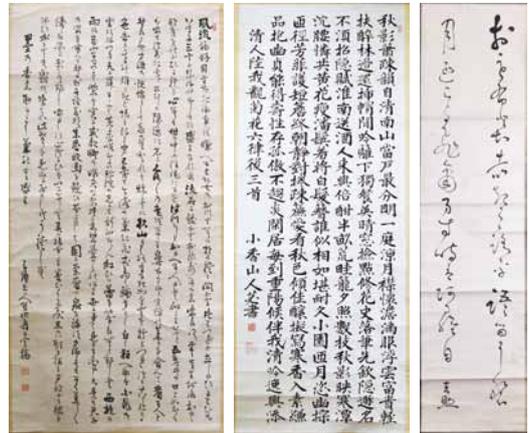
(1) 古文書（近世・近代）

近世文書の多くは県史編纂室の封筒に入っていました。しかし、県史資料の目録には40点余りが登録されているのみで、大部分は目録になっていないようです。ごく一部に手を付けた段階ですが、安永（18世紀後半）から明治までの年貢割付状や皆済目録などの貢租に関するもの117点を確認しています。

(2) 掛軸

書画を中心とした61点がありました。この中には江戸後期から明治にかけて伊豆地方で活躍した文人・学者によるものが含まれていました。[写真左]は^{みまたじゅへい}箕田寿平の書です。寿平は漢学者・福井雪水や俳人・孤山堂卓郎などに師事した俳人ですが、その他にも塾を起こしたり、戸長を勤めるなど公人としても活躍しました。[写真中]は福井雪水門下で、^{やまぐちよいち}葦山中学校（現県立葦山高校）校長や県民会議員も務めた山口余一の書、[写真右]は国学者で三嶋大社の宮司を兼任した^{こんたなやすけ}権田直助の書です。

彼らと杉山家との関係ははっきりとはわかりませんが、杉山家の人たちは明治期に盛んに和歌の雑誌に歌を寄せるなど、文化活動に熱心だったことから、何らかの繋がりがあったのではないのでしょうか。



(3) 古書

江戸時代から明治・大正時代にかけて出版された数百冊の古書が所蔵されていました。漢籍や日本の古典研究を中心とした国学の書、歴史書、文芸に関するもの、寺子屋や小学校の教科書など、蔵書は幅広い分野に及んでいます。調査した本のなかからご紹介します。

「文明開化^{けんこん} 乾・坤」加藤祐一^{ふじのや}著 藤酒家版 明治6年

西洋の文物がもてはやされた明治初期に書かれた啓蒙書です。西洋人のまねをするのが文明的なのではなく、西洋の良いところを学び実行することが文明的なことであると説き、維新後の新しい時代に人びとがとるべき態度がわかりやすい言葉で書かれています。



「明治二十年御歌会始御題 詠進歌集」^{たけみちもり}橘道守編 明治20年

詠進歌とは、宮中で行われる行事「歌会始」のお題にあわせて詠まれ、宮中に献上された和歌のことです。もともとは皇族と華族らで行われていた行事ですが、明治12年からは一般の人でも詠進できるようになりました。杉山家でも和歌の詠進を行っていたのか、多くの詠進歌集が所蔵されていました。



伊豆半島ジオパーク構想 Vol.8

富士山が「世界文化遺産」に認定登録されました。今回は三島市内で最も富士山と関連が深い「浅間神社」をジオの視点から紹介します。

伊豆二ノ宮・浅間神社は富士山の守護神「木花開耶姫命」と伊豆大島・波布比売命神社（延喜式内社）の「波布比売命」を主神とし、「姫宮」「岩止め浅間」とも呼ばれます。江戸後期に大衆化した「富士講」の富士登山「三島口」として、明治22年に東海道線（御殿場線）が開通するまでは、多くの登山者が当社に詣でてから御師に先導され富士山頂を目指しました。

境内右手には、約1万年前に富士山から流れ出た三島溶岩を神様がここでくい止めた時に、踏ん張って岩に付いた「足形」が残っています。これは溶岩トンネルが詰まり、行き場を失った溶岩が表層の溶岩を押し上げて出来た「溶岩塚」の内部に溜まったガス穴です。溶岩塚は西側を削除されているために断面が観察できます。

社殿右手前には長さ約50cmの楕円形で表面に膨張亀裂を持つ「溶岩塚の赤ちゃん」も有ります（Vol.5で紹介）。その奥には溶岩流の表面に出来る「流動しわ」縄状溶岩が残されています。社殿左奥には樹皮が剥離した枯大木があります。樹齢は300～400年でしょう。樹根が削平された溶岩塚を覆っていることから、境内が整地された時期は江戸時代初期、あるいはそれ以前と推定できます。



溶岩塚

社殿前の池は夏になると湧水で満たされます。厚さ数10cmの溶岩単層の間の「湧き間」から湧出します。富士登山者の禊ぎの場でした。

西側の「芝岡神社」は江戸時代「現・三島信用金庫本店」付近にあり、第六天を祀った「世古本陣」の宅神でした。明治4年、芝町の氏神になり、昭和27年に現在地に移転しました。移転前の本殿下には大きな丸い霊石があり「子供の守り神」とされていました。霊石は約2,900年前の富士山東斜面の大崩壊に伴い発生した御殿場泥流中の転石でしょう。

浅間神社・芝岡神社の境内には8基の石燈籠が有ります。石材は、数百万年前、伊豆が火山島群の頃、海底に堆積した火山灰が固まり温泉の作用で褐色に変色した「江間石」です。江戸後期に北江間から切り出されたものです。しかし、8基とも火袋の石材が異なります。北伊豆地震で倒れ火袋は粉碎し、作り直したのでしょう。浅間神社社殿前の2基は竿に「御神燈」と彫られています。他の6基は「常夜燈」です。江戸末期、芝町の辻に置かれていた「街灯」が近代の道路整備でここに集められたのでしょう。

なお芝岡神社脇にあった「富士登山道」は消滅しましたが、一部が楽寿園正門西側に南北に延びる遊歩道として残されています。



芝岡神社



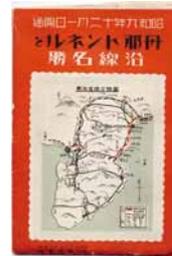
浅間神社

(増島 淳／三島市郷土資料館運営協議会委員)

寄贈資料の紹介

平成25年4月から平成25年6月までの寄贈は、下記の方々からです。ありがとうございました。

氏名	寄贈内容
横浜市ほか 漆澤恭子氏、杉山信成氏	近世・近代文書、古書、慶応4年高札 掛け軸、塗椀など民俗資料 1式
三島市 樫村 茜氏	三島市立公園楽寿園敬老招待券 1点
長泉町 —	丹那トンネルと沿線名勝 (絵はがきセット) 1点 はがき (田代区竹林ノ亀裂) 1点 はがき (丹那地域付近ノ地図) 1点
三島市 宮澤正雄氏	唐箕 (部品) 1点、おひつ 1点
三島市 山本 修氏	矢羽根 1点



楽寿園
敬老招待券



丹那トンネルと沿線名勝

●郷土教室の予定

開催日	内容	
8月2日(金)	むかしの遊び	こま、けん玉など昭和のあそび体験 折り紙を使ってのうちわ工作、紙芝居上演
	郷土資料館 館内探検ツアー	資料のない状態の展示室や収蔵庫見学 開館後に隠れてしまう壁面へ「未来に伝えたいもの」を描く
8月3日(土)	むかしの暮らし	わら細工 (稲わらを使った縄ないなど)
8月11日(日)	古代の暮らし	勾玉作り、火おこしなど古代の暮らし体験 *勾玉作りは先着50人まで
9月8日(日)	むかしの遊び	こま、けん玉など昭和のあそび体験、紙芝居上演
10月13日(日)	むかしの道具	石臼、天秤ばかりなどの昔の道具体験

平成25年度郷土資料館職員の紹介

館長 鈴木敏中
職員 平林研治、土山瑛香、笹山曜子、大川裕代、
樫村 茜、藤村明美

編集後記

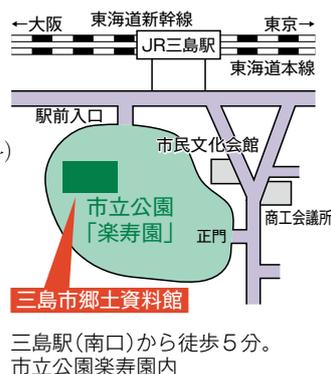
リニューアルオープンまで3ヶ月、
楽しく見学し、体験できる郷土資料
館づくりを、はりきって準備して
います。ご来館をお待ちしています。

ご利用案内

〒411-0036
静岡県三島市一番町19-3
楽寿園内

●入館無料
(但し楽寿園入園の際に有料)

平成24年10月1日～平成25
年10月31日まで耐震補強・
リニューアル工事のため閉
館しております。
9月13日(金)まで閉館中は
右記、仮事務所へご連絡く
ださい。



三島市郷土資料館
三島駅(南口)から徒歩5分。
市立公園楽寿園内

郷土資料館だより vol.36 No.1 (第106号)

発行日 平成25年(2013)8月1日(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
〒411-8666 静岡県三島市中央町5-5
市役所中央町別館2階
TEL 055-971-8228
FAX 055-976-2735

(平成25年9月13日(金)まで仮事務所となります。)

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>
発行 三島市教育委員会